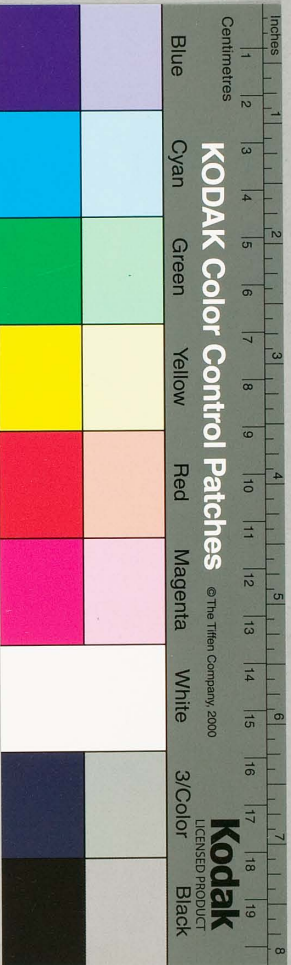


0381



拾遺

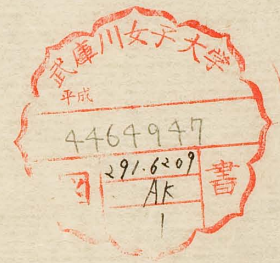
都會名所圖

平安城

291.6209

Ak

1





石所圖會拾遺者
 山城川之都邑山
 川之美禰祠佛樓
 之勝分毫末於短
 簡籠千里於寸陰

喜多八重子氏寄贈

存澤

所謂能居然而辨
八方者乎哉夫徒
有勝情實無濟勝
之具者唯當卧以
遊之

天明丁未九月

鷺尾大納言藤原隆建卿

櫻寧主人



凡例

- 一 此書と前編小漏るる紙拾ひあひ先きあ今の風系かごひと圖小
 換寫し其由縁を記し竹の松ととも佛院の塔頭末泚の子院等ハ
 隙限あつたれと感載年舊く名の高低を撰録と
- 一 前編の圖中に遠景の畫あり今これに微細小圖し其封境ハ
 精くあらはに大悲の牛尾の款あり
- 一 圖畫後編小あひく文法それ前編に出たり文法前編小在り
 圖畫あつた後編小ハくし兩編應照し其全を和龜一丈慶り
 至つては前編に載せし下も再考し漏るを補ふ北野社
 東福寺の款あり
- 一 古人の居所ハ舊記歌書ふとふより其地を考これと載り古人乃
 口稱も亦奇あつた除くつりあつたは粗これハあはれ
 一 引書の長文さつた其要を摘み畧書と

一洛中神社佛閣の圖（まじりく）も成編に出たり拾遺の街衢小路より
 はくある小祠子院（せうし）を畫する小風系（こふうけい）か一因茲大社の系（よ）礼成
 多く圖と又ハ四時遊觀の形勝と寫と
 一圖中の間々小大画あり強名所古跡小や々（こま）其色の比勢（ひせい）ゆるく
 風流の系氣と畫するとの之旅（たび）の人道（じんどう）に迷ひて里人（さとびと）の聲（こゑ）が上（あ）り
 るる林（はやし）又ハ野原（のの原）に往來（わうらい）するに暴風（はうふう）小適（せうた）く笑（わら）ふとく（く）禊（け）
 ふとの類（るい）あり其餘（そのよ）と茶編（ちあへん）の凡例（ぼんれい）がとくの西編（さいへん）が曉（あき）
 目（め）を（を）看（み）る（と）か（と）

拾遺 都名所圖會卷之一目錄

平安城

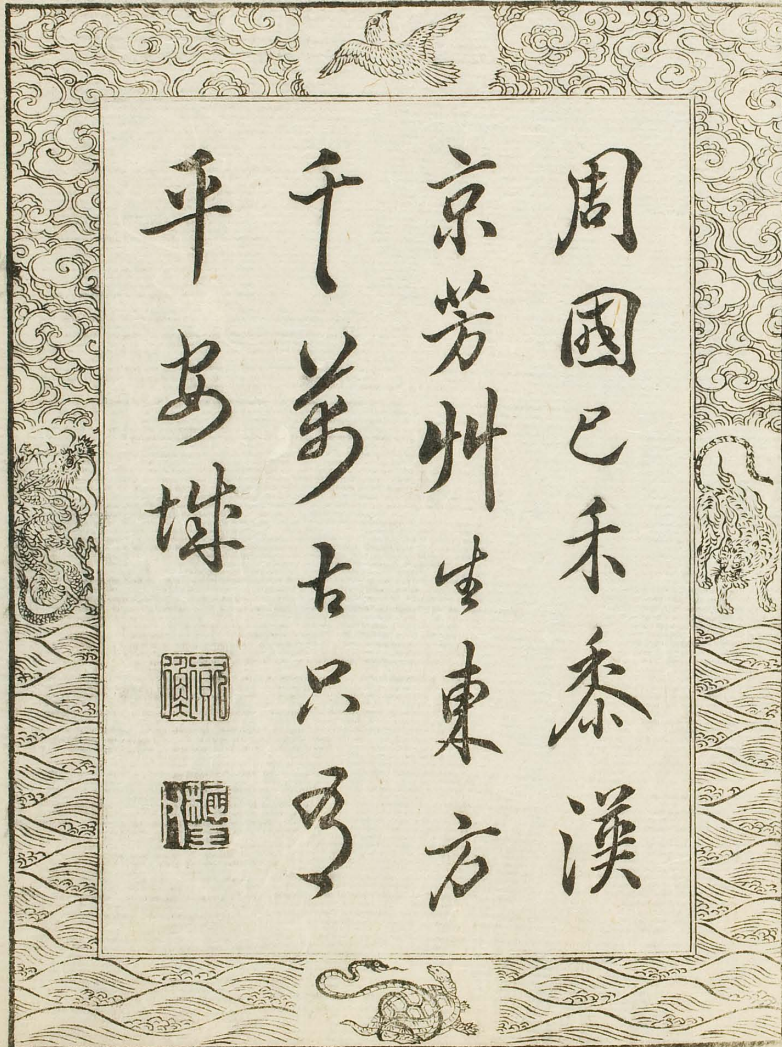
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 公卿拜賀系 <small>（こうけいはいが）</small> 系 <small>（けい）</small> 因圖 <small>（いんず）</small> 同朝賀圖 <small>（どうていがず）</small> | 京城之釋 <small>（きやうじやうのしやく）</small> | 平安興基 <small>（へいあんきぎ）</small> | 四神之記 <small>（しじんのおき）</small> |
| 王城之解 <small>（おうじやうのげ）</small> | 御靈社 <small>（ごりやうじや）</small> 倒 <small>（た）</small> る <small>（る）</small> 圖 <small>（ず）</small> | 九重之盪腸 <small>（くじゆうのたうちやう）</small> | 洛陽之事 <small>（らくやうのじ）</small> |
| 大内裏封境 <small>（たいないりほうけい）</small> | 上善寺 <small>（じやぜんじ）</small> | 鶯宿梅 <small>（うりやうしゆくばい）</small> | 曙櫻 <small>（あけぼのうゑ）</small> 靈符 <small>（れいぷ）</small> 神社 <small>（しんじや）</small> |
| 五所八幡 <small>（ごしよはつぱん）</small> | 光明寺 <small>（くわうみやうじ）</small> | 大寧寺 <small>（たいねいじ）</small> | 西園寺 <small>（さいえんじ）</small> |
| 長福寺 <small>（ちやうふくじ）</small> | 京極八幡 <small>（きやうごくはつぱん）</small> | 阿弥陀寺 <small>（あまたのてら）</small> | 十念寺 <small>（じゆねんじ）</small> |
| 佛陀寺 <small>（ぶつたうじ）</small> | 寶慈院 <small>（たうじにん）</small> | 飛杉院 <small>（ひさきにん）</small> | 金龍水 <small>（きんりゆうすい）</small> |
| 昆沙門堂 <small>（こんさもんどう）</small> | 福大明神 <small>（ふくたうめいじん）</small> | 道正庵 <small>（だうしやうあん）</small> 稻荷社 <small>（いなはりじや）</small> | 大峯殿 <small>（たいほうだん）</small> |
| 今宮 <small>（いまみや）</small> 藤圖 <small>（ふじず）</small> | 本隆寺 <small>（ほんりやうじ）</small> 十代の井 <small>（じゆだいのみ）</small> | 興聖寺 <small>（きやうせいじ）</small> 錦裏園 <small>（にしんりえん）</small> | 超勝寺 <small>（しやうしやうじ）</small> |
| 福念寺 <small>（ふくねんじ）</small> | 惠光寺 <small>（ゑいかうじ）</small> | 三復荒神 <small>（さんぷくこうじん）</small> | 獄門寺 <small>（ごくもんじ）</small> |
| 智惠光院 <small>（ちゑいかういん）</small> | 不動堂 <small>（ふどうどう）</small> | 大道社 <small>（だうだうじや）</small> | 無量寺 <small>（むりやうじ）</small> |
| 西方寺 <small>（さいぱうじ）</small> | | 紅梅殿 <small>（こうばいだん）</small> 梅路碑 <small>（ばいじゆい）</small> | 北野菜種 <small>（きたのなね）</small> 御供 <small>（ごくう）</small> |

北野 北野社 繪馬堂 無年落
 茶師堂
 蜘蛛塚
 大將軍社
 紹圓寺
 内野
 慈眼寺
 西蓮寺
 稻荷荒神
 滋野井
 伊勢御家
 業平御家
 飛多井
 白公社
 高辻殿大満宮
 行事官神明宮
 聞名寺
 寂光寺
 安養寺
 法然寺
 後成御祠
 大江公資家
 大師堂 名構
 六齋念佛
 龜龍院 龜法師
 飛梅誕生水
 州家銘 手向山舟楫
 轉法輪寺
 和光院
 東光寺
 西光院 人磨像
 祥光寺
 華陶院
 梅雨井
 大學寮齋齋趾
 和泉井
 曇華院
 祇園會祭禮圖
 法泉寺
 船宮 連歌堂
 清和院 文子社
 西京
 法慈寺
 立本寺
 福勝寺
 淨篤院
 松林寺
 土橋稻荷
 少將井 同天王社
 不動堂延命院
 成乾御家
 願樂寺 暉天儀

定家御家
 常盤井
 安禪寺
 三福寺
 教安寺
 空堂踊念佛
 聖光寺
 徳正寺
 七夕提葉流
 鼠突不動
 元々女祠
 肉桂水
 都町涌
 白公社
 高辻殿大満宮
 行事官神明宮
 聞名寺
 寂光寺
 安養寺
 法然寺
 後成御祠
 大江公資家
 大師堂 名構
 六齋念佛
 龜龍院 龜法師
 飛梅誕生水
 布袋茶師
 遣迎院 水井
 梶井大満宮
 妙傳寺
 信仍寺
 了蓮寺
 空也寺
 南岩倉
 御射山諏訪祠
 阿闍梨諸社
 山王社
 道祖神
 大泉寺 親善聖人
 紫式部家
 本禪寺
 見性寺
 大恩寺
 要法寺
 燈燼堂
 桑預寺
 鐵瀧塚
 任心院 昆沙門堂
 和歌所齋趾
 午頭大王
 平將門祠
 火尊社

人麿社 ひとまろのやしろ
 相違祠 あひだいのやしろ
 正運寺 しょううんじ
 休務寺 しゅうむじ
 月輪寺 げつりんじ
 本圖寺方丈 ほんずじょう
 堀川御所旧趾 ほりがわごしよのこゝろ
 織部京坐舖 おりべきやまぐら
 阿佛塚 あぶつづか
 源頼光館 げんらいみつたね
 洛外惣土堤盤觔 らくがいそうどつていばんしん
 一 道院 いちどういん
 児茶師 こぢやし
 隼祠 はやぶさのやしろ
 聖徳寺 せいとくじ
 歸命院 きめいいん
 源頼義家耳納堂 げんらいぎけみみくしだう
 大橋立 おほはしだて
 稻荷逆挑灯 いなりさかぢやうぢ
 猪隈祠 いのくまのやしろ
 藤子祠 ふじのやしろ
 又後社 またのちのやしろ
 水葱宮 みづそうみや
 壬生寺鰐巨羅 にぶせじやうごら
 中堂寺 なかつだうじ
 淨影堂扇折 じやうえいだうせんせり
 下間家 しもまのけ
 本宮塚 ほんみやづか
 東寺神供 とうじのしんぐ
 高瀬川 たかせがわ
 本仍寺 ほんにやうじ
 三寶寺 さんぼうじ
 壬生菜畑 にぶせさいはたけ
 一夜之神 いちやのしん
 長圓寺 ちやうえんじ
 三善清行家 さんぜんしやうけいけ
 桂宮旧趾 けいみやのこゝろ
 施茶院杜 せぢやいんぢ
 國姓爺寓居 くにかいぢやのやしろ
 羅城門舊蹟 らじやうもんこゝろ

周國已禾黍漢
 京芳州生東方
 千步古只弓
 平安城



九重天上東儀鳳
五屯雲中拜袞龍



公卿拜賀
后内祚

續十載
民之
國花
御代
あ
ちと
初
一条



初空小
 玉のたの
 茶屋此
 軒々字
 竈橋人
 其の
 一ツ
 あり



元月小檜垣の
 茶屋此
 内裏へ
 入々々
 月々々
 狂歌歌
 上々々

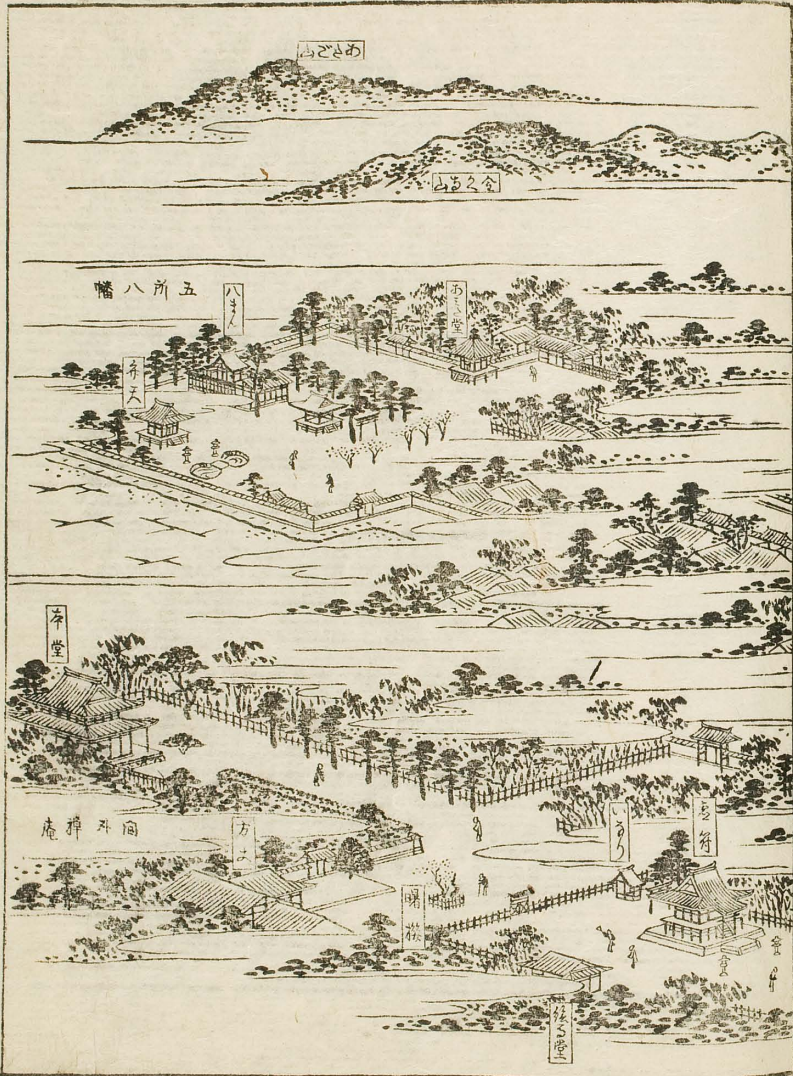


伊澤

平安城の興基ハ人皇五十代乃帝極武天皇延暦十二年正月甲午日
詔有りて大納言藤小黒磨左大辨古佐美等小山背國の勝地を視
ヤ心勅小隱ひあかしの群縣城めりて上奏し之曰當邦
宇多邑ハ地勢郁都として四神相應一有德無疆ハ皇州之速に
新都と稱テ帝城と造し之を治り代不易の都なりとせや
因茲同年二月辛亥の日恭議治部卿壹志濃王と加茂ヲ神小遣
めて遷都れりと告たまひ曰き三月己卯の日天皇葛野小行幸
あつて新京乃地理ヲ觀覽し之ハ五位己上及諸司主典として
役まを進免新都の宮城ヲ造宮一九重とあつた四方ハ洛域ハ
隍坂りて廢を興し絶つて瓜繼鴻業城同色し之ハ同十三年
十一月詔ありては國ハ小背帶一自後と城とあるは小背背の
文字城ハ城と改免後ハ即都と平安京と號なし
の次第ハ上古より大和國と首坐ハ承和二年十月勅して改め

四神相應の地といふ事ハむす聖德太子蜂屋今の大のり給ひて此
都を見あつして四神相應の地ハ百七十余年ありて都を遷して
はト所ありと宣ひたるを傳ふる神皇正統記 四神といハ東と蒼龍
西ハ白虎南ハ朱雀北ハ玄武とありて四方ハ小背の地これ鬼神ノ象
ありと云ハ能あり奉天の二十八宿と四割りて七星ヲ四方小配して
其星の象より起る名あり宿の立所ハ時小より東小も又西小も運るそ
まハ抱らば角九氏房心尾箕の七の宿れ並屋ノ龍の宿り星と東れ方と
北牛女虛危室壁の七の宿れ並屋ノ虎の宿り星と西の方と奎婁胃昂
畢觜參れ七の宿れ並屋ノ短尾の宿り星と南の方と辰井鬼柳星張翼





五所八幡
 上善寺
 間卧禅庵
 曙の松

光明寺 京極通條遠橋の由あり 本尊抱止如來 弘法の坐像六尺計四十八頭巡の

阿弥陀寺 同街光明寺の由あり 本尊阿弥陀佛 弘法の坐像六尺計四十八頭巡の

織田信長同信忠兩公影 弘法の坐像六尺計四十八頭巡の 同兩公墓 戦死臣救軍墓

十念寺 同街今世川の由あり 降土京西公流永觀堂不属に 同墓八真阿上人足利

本尊阿弥陀佛 弘法大阿の坐像八尺二寸あり 古く東山坐像あり

佛鬼軍圖 一休和尚の坐像佛に對して無比の 足利將軍諸士念佛講名帳 當寺小

口ふくふく車本傳不記と云陀の書どとあり 足利義教

佛陀寺 同街今世川乃小あり 帝王系圖云天曆六年二月四日 朱雀右左皇佛陀寺小

本尊阿弥陀佛 弘法の坐像八尺二寸あり 古く東山坐像あり

京極八幡宮 上清靈門前西二町あり 古く東山坐像あり 寺坂京極寺と号し

乃時此寺小橋で力坂石の樣に具石今坐像あり 傳云武藏坊知宗社年

應仁の亂後此寺遷るといふ今京極寺と号し 寺記終焉

中右記云寛治八年八月八日申時 計大學寮小馳泰どかの條の東れ門南乃

高陽親王と申すは 親王の建徳と具寺の花れ河京あり 國はさの

領ありたりと云ふ天下早魁と云ふ年為の所ふ 燒たぬと云ふは 國はさの

川の水を入るに 依りて田具川と云ふは 田具川と云ふは 田具川と云ふは

高陽親王長四尺計の童の在る 牛ふ器と捧て 形を乞ふと云ふは 此國の中不立

具持するを 水と入ると盛受ると 頰み流ると 掛る様と 造ると云ふは 此國の中不立

を及ては 盛受ると 頰み流ると 掛る様と 造ると云ふは 此國の中不立

人市と云て 集ると云ふと 見真と 鳴ると云ふは 此國の中不立

燒として 止ると云ふと 見真と 鳴ると云ふは 此國の中不立

羽休山飛行院 柳原室町の酒あり 古く堂舎 藤々とうり 本尊將軍地藏 愛宕山の同墓慶俊和尚

天狗右布坊示記あり 木蓮の叢あり 慶俊和尚像 坐像一尺余

威得と故に 木蓮の叢あり 慶俊和尚像 坐像一尺余

金龍水

室町頭柳原の苗町西側人家茶亭の傍あり京師の名水の因りて水糶

寺大心和尚の銘文あり... 原此枕の足利三代將軍義備公の館ありて... 今近隣の町と想門町葉山町とありく四方の巡り巡り後右平記ありへり

田比沙門堂

鳥丸小頭柳原の社あり... 本尊毘沙門天 聖徳太子の住持説云足利義備公二百六十尺の塔と建り小應仁

後愚昧記云應安二年二月十九日毘沙門堂... 明月記云貞永二年二月廿一日丙午毘沙門堂の花半開くと云云

寶慈院

室町頭中村下町の禪宗日野家の本尊阿彌陀佛 長日の坐像一丈計

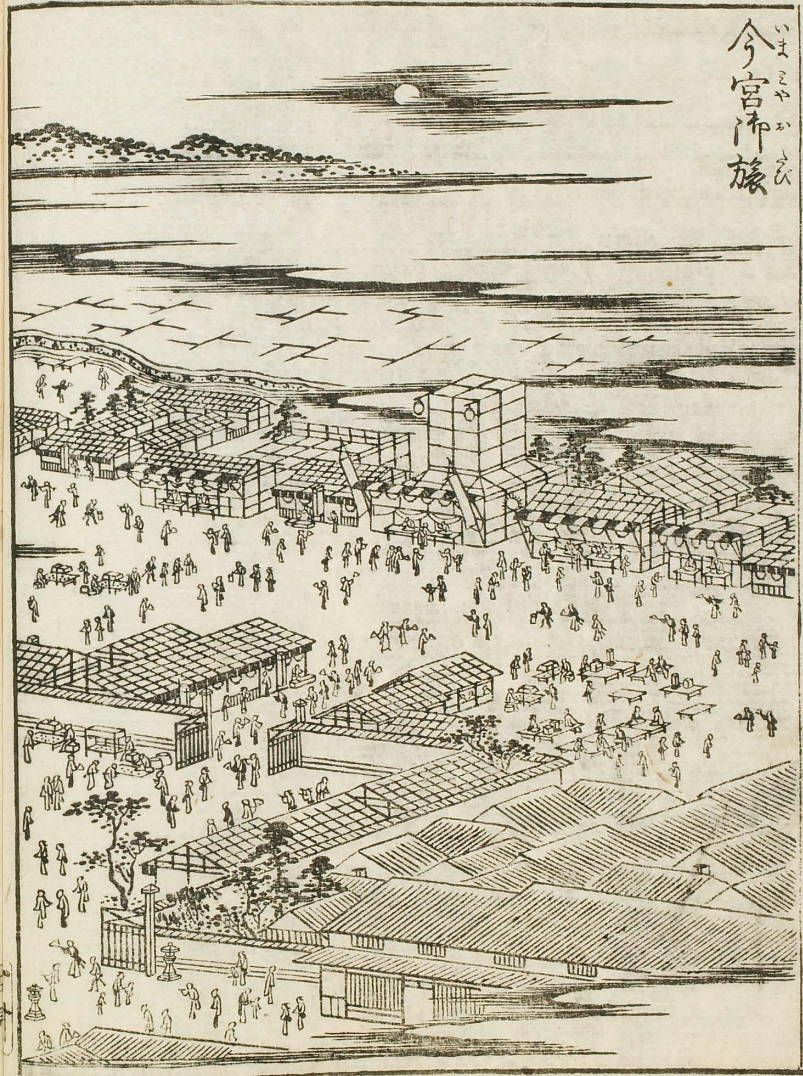
道正菴稻荷社

同所の西道正の比子あり道正傳曰俗姓行隆越前國永平

大峯殿

西洞院一條の小大峯比子西側の大石塔あり古は所寺院ありて修行者の

今昔物語曰 京外術といふ好く役する下衆法師を隣り有る者男は法師の家小行て世帯おん切を云々法師が云ひり頼ん小僧を云々速ふと教さるるを男懇小習人と云ふ七日堅固精進して法師



い
ま
の
宮
津
旅



三復荒神

元誓復寺通大宮の西あり存者荒神（三復の荒神）尺寸が除穢なり聖験あり

獄門寺

西陣七の社の西に隣り一名西福寺といひう（獄門の社）大納言の時時西園院

秀吉公朝鮮征伐の時この地の敵兵を斬りて其處を大佛殿のおつこめ

耳塚と号し四圍に石を築き寺に納め佛を安置上人の供養の導師に

作給ふ其時秀吉公より資料を賜ふより寺記あり人より後世

荒廢してあり今より今も存者本寺葉所佛ハ聖徳太子の清化

立像四尺計原大和國高市郡あり一條院清宇寛弘二年八月はる

智恵光院（智恵光院）一條の北あり降宗（降宗）本尊二尊佛（二尊佛）彌陀觀音（彌陀觀音）至と安に

惠光寺（惠光寺）祥福寺通一條の北あり法華宗本國寺に屬し開基の權大郡日安上人本願

所といふ久我暁道公の息女より俗名淑伴佐女といふなり近き小茶房と傳へ

信に今の伴佐町是之を志す亡丈夫の法名之伴佐女淑伴佐女といふく迷憶の念を

おん人のものとも法名をたれとの勢は世をほろろれ 妙法尼

無量寺

千本通屋町あり糸神日月の二神（無量寺）舊街の北柏町あり降宗（降宗）本尊阿彌陀佛（阿彌陀佛）長慶大師の化立像四尺計

西方寺

小町直盛此子あり天台宗法華宗本尊阿彌陀佛（阿彌陀佛）他教大師の化立像今女佛

不動堂

七津松通今山川の南あり本尊ハ智證大師の化坐像三尺餘（不動堂）又殿内ハ小佛の不慮を故安に後影勝乃寄附之

紅梅殿

小群宮東の門一町餘東あり勸請の由致茶給ふ尺寸の梅銘の碑あり（紅梅殿）背文ハ東坊城丈納言細忠卿銘文筆跡共久川勸負

菅公手植梅銘（菅公手植梅銘）龜矣斯梅瓣乎含章必弗瓊姿勳儼耿光祥風翕習傳馨外左候（菅公手植梅銘）

根孔蘇孔彰允歐金石多歷星霜德比聖槍愛均其棠鴻名有赫億世（菅公手植梅銘）

無疆（菅公手植梅銘）天滿宮菜種御供（天滿宮菜種御供）西京勸負町小供所也毎年二月廿二日鳥羽院清宇天仁

二年より始て北群宮の清忌を執りせり其日の夜入て清供田取願なる家（天滿宮菜種御供）

より大小の神供のどし調清供所ハ銘を本殿に捧げける宮司の面々相向し垂之（天滿宮菜種御供）

く神前の階下に至りて清供供と宮司の一老二老神お出でて一老一老の供物を捧げ（天滿宮菜種御供）

二老ハ右様の供物と捧げておく神お供入清供の飯と堆盛て其上ハ菜花（天滿宮菜種御供）

と挿と故ハ菜種御供と標と年小よりて菜花（天滿宮菜種御供）ハ一対ハ則梅花と挿し之

又毎歳六月九日都下の人々まの奉社清く南の門外お出でて又奉社小詣と斯（天滿宮菜種御供）

の如くとも奉九夜を奉しと九夜奉といひ日むり小群宮初て遷坐し終白之（天滿宮菜種御供）

と七月六日因陣ハ藏ある神寶取幣殿お出でておれお出する此日も諸人（天滿宮菜種御供）

群衆一々其間小宮司の衆僧内外の陣ハ煤塵を掃ひ同七日ハ曉天ハ（天滿宮菜種御供）

松梅院之人也。陣小入て清手水を献し神寶の中松風の清視のう小穀
兼致至て貢る足七夕のわをと神咏しゆ為之を又清祭禮むり八月又小
行して具振ひ及麗巖をうていさうろく神邊致勸解由全下三葉の西う所旅
所小迂しなる具道條干餘町の同地よ小蜀紅錦故布供奉は孝ハ羅綾乃社
を飄し音樂の聲雲井小むたなるう當社の日記より之より初雪只都下下駱人
當社小詣しわ并致孫詩致咏しと献ししう下りの凡俗之又菅原氏乃
五條殿高辻殿東坊城懸之家の息男十七兼小乃よの時神前小詣し幣懸ふあて
文章一為致撰し自書して奏しはと獻策ふ小是よりしと後秀又賞は
此時右近馬場より南の象地小傍之南の門小合れと坊城途といし菅神
始て七條文子と宅小現しゆいより文子とまの末裔と代々仁右と稱し神位と
勤む具婦も亦世文子と名はと女平とら松梅院妙徳院使勝院の二家ハ社司
少て具餘目代宮司の致軍文々神位と勤む定小流北の大屋うて 聖廟影向ハ
千載の星霜程進しといしと神威の日々小新うて諸人常小向斷ねし

北野社

小所地之の神山にて天備宮本殿の後東より第一の社之神祇拾遺之仁明帝
承和二年二月遣唐使の爲小初て天神北祇と多うとる人土人小所殿と稱す

白左社

本殿の右東傍あり或云聖廟荒蕪致多うといし
一説ハ勢別神主春彦ハ靈ありといし

老松社

本殿乃後又あり勸所ハ菅神所愛松老松乃靈之
社頭雪

朝日寺

本殿の西あり古の遺跡之思沙門堂 朝日寺の右隣る本尊立像四尺計
本尊觀世音立像二尺餘 脇士吉祥天女善藏士童子

煙の宮

朝日寺の右末社七座の白あり梵燈庵心燈僧都連歌小志徐く小所連歌
堂小あわてあり舎小烟といし附勺秀逸なり末 菅神感應傳しとて手小
於葉の大事立水の巻卧龍乃卷の二書致授けりといし

身

身ハいつの煙の多なり抄りん 心致僧都
篠の目之ハ連亦ユクありて小所の宮乃末社小煙の宮とせり灯唐之れ末也といし
此碑都ハ殿山住心院の位職なり

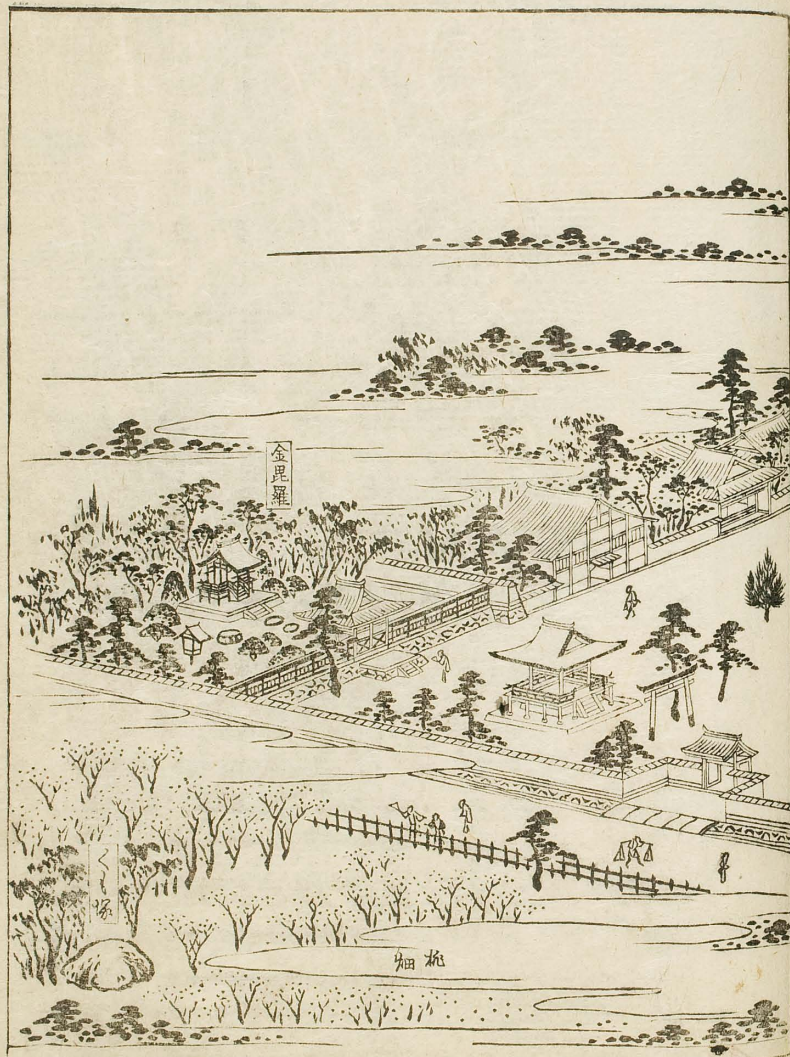


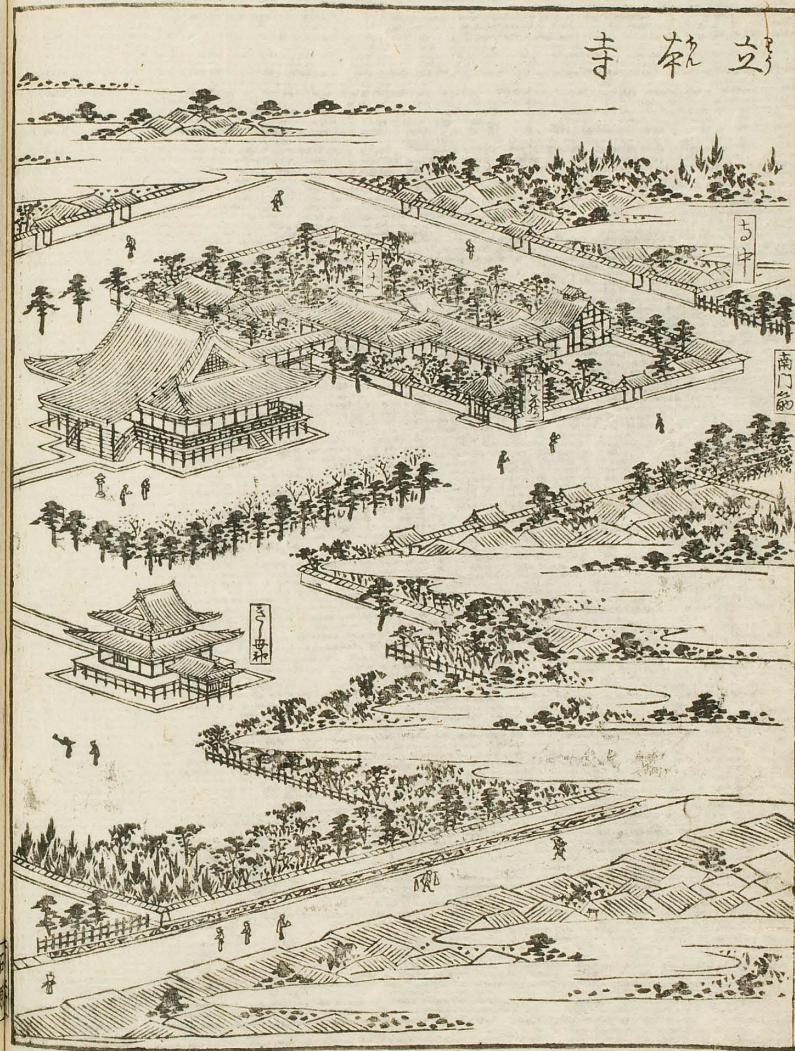
手向山楓樹

鳥蹟已降入文聿興衣帛木葉亦與斯文惟願將聖克念入神書
草蘊崇功進成山旨北難助且貽子孫分而爲石石可與言龍地
前蟄母乃生雲膝康桓篆屈正超銘寬保三年癸亥夏四月鳥石
人書立於 北野廟側
朝家碑の南あり南都子向の丹楓と奏しゆふりし植はこれ
神詠ふよりと之本陰小手向山楓と銘する標石あり



北野天満宮
奉種御供







衆雲

全盛の
 夕霧
 一まら
 うのく
 死
 雨霧の
 めぐみ
 小
 各揚
 成
 とも

北野 映山紅寺





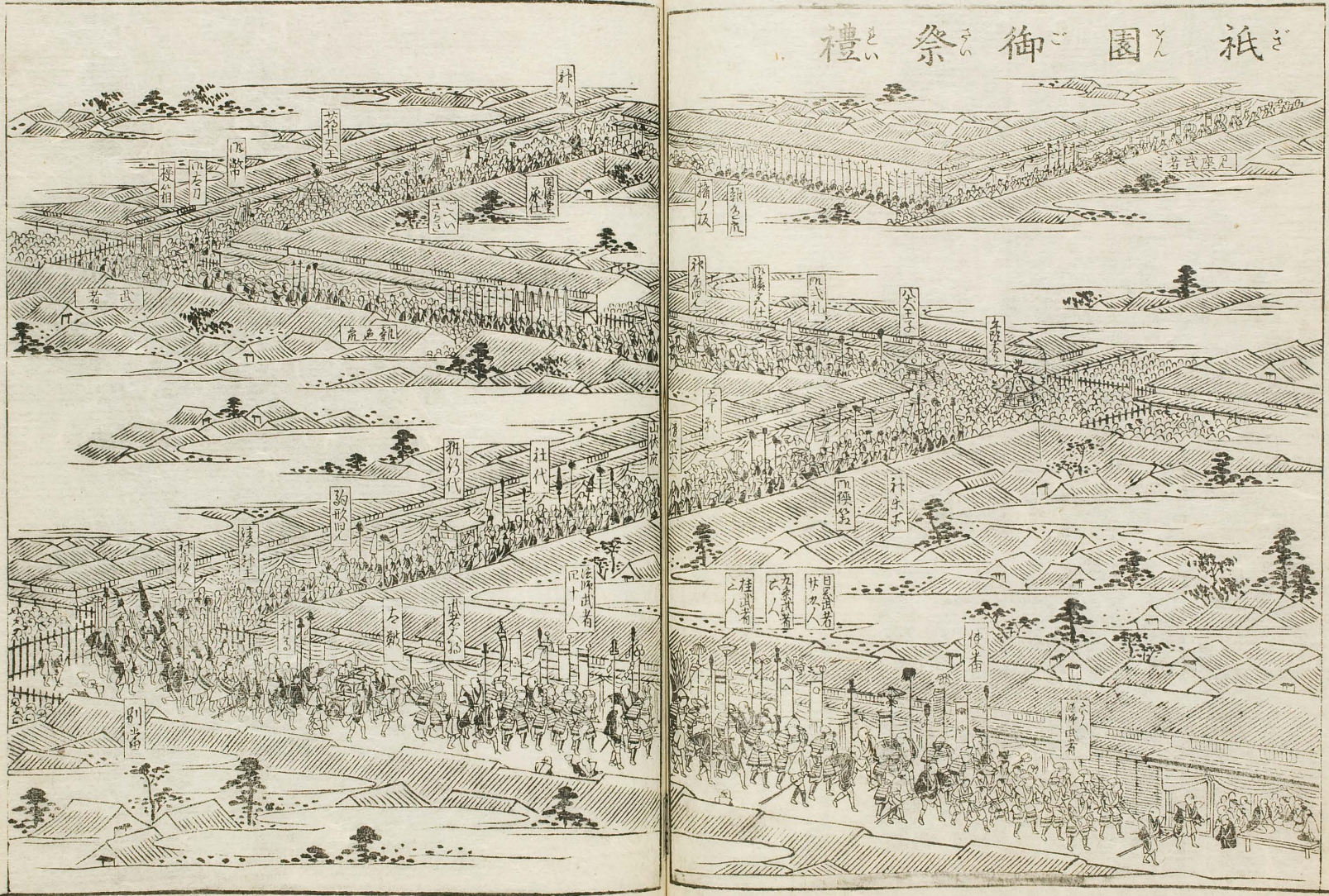
鉾の児

志の
まの
へ



祇園會鉾の児は町々の
當家よりあつひ出り同程日
本社へ糸指どりの歳を又
して若衆は駕しき歩徒
後丁従者多く引いて正一其
行粧風流漂々として死高貴
の性本の如く是さん
神の威徳れいら
あつひあつひ

祇園御祭禮



後々ふは林檎の木七月より再生して芽を發し枝葉繁茂一花は夏の如く咲くは九月
小玉の實を結ばたり人の現在の奇異ありて驚懼せ及といふ事ありや有りたる地也
發したる驛あり其例本撰とゆふ多し後世識れども人あつたるなり
成範卿の家 桜町中納言と号し少納言信西の息男小督局の父也
長門本平家物語云

成範卿と櫻町と中納言と事ハの卿櫻と藤と愛し結びて姉小治室町の宿所と櫻門乃
見入り西東江町と親と並本の櫻と植通されたりとされし遠近人異名ふは町
とて櫻町と中納言と事ハの卿櫻と藤と愛し結びて姉小治室町の宿所と櫻門乃
中納言と事ハの卿櫻と藤と愛し結びて姉小治室町の宿所と櫻門乃
詔し下されたる 源平盛衰記云 此町と樋口町の櫻町と中納言と事ハの卿櫻と藤と愛し結びて姉小治室町の宿所と櫻門乃
七百餘の櫻を植はせたり人長毎小中納言と事ハの卿櫻と藤と愛し結びて姉小治室町の宿所と櫻門乃
中納言と事ハの卿櫻と藤と愛し結びて姉小治室町の宿所と櫻門乃
ちつやぬるあゝ人神乃神されは花もよわいとのいふるるふ
飛鳥井 万葉小治二條の南東側人家乃妻あり
風雅 わと。井のま乃心をわねと藤らるる花の陰に

前巻後
萬葉集

定家

三條右大臣家

長門本平家物語云
定方卿と拾芥抄云三條坊門の也
万葉小治の西と云云
二条右大臣家乃屏風也
後載
まきて子日みおれいづちひしてつるの人の好ふと云
貫之

法泉寺 万葉小治柳小治の南東側あり東本願寺小治は本尊阿彌陀佛ハ
慈覺大師の化之縁云三條原の天台宗封境方一町ありて善法院角之坊
と号し親鸞聖人乃舎才深有僧都の住職一人所之舎兄聖人園東より上治
の後時々はふまえて大衆易行乃法流派弘光寺の權院今宗とあり

本願寺傳記曰禪房ハ長安馮翔の邊押小治の南方里小治の東と云云
法泉井 當寺乃在沖あり往昔親鸞聖人止住乃時ハ井坂掘りむつふ
水底小石ありこれと引揚る形虎乃形也如く故ハ聖人銘して
虎石と云づく今東大谷祖廟乃上あり亦編み委し町號は石より起り寺
號此井より起る

願樂寺 日町西側あり東本願寺小治は初ハ江別交傳ありて本寺阿彌陀佛ハ
法々本家の法族者也在衛門尉類方法師正願と号し蓮如上人の才子と云
三天儀 當寺乃什室之孚保年中禮越ハ佐々木源慶と云人あり
景松則ハ左旋右旋乃運光坂ありて輝天儀を伴胡ハ移りて其れ故
三天儀と号し慶安以後遺言より其の祖位々本枝義の本像と云ふ事
小寄附ハ是願樂寺の祖と同姓の由縁あり毎年冬至の日三天儀と云
天文報講説一諸人ハ之を慶安述他の書本朝天文志十卷あり
世ハり

願樂寺 日町西側あり東本願寺小治は初ハ江別交傳ありて本寺阿彌陀佛ハ
法々本家の法族者也在衛門尉類方法師正願と号し蓮如上人の才子と云
三天儀 當寺乃什室之孚保年中禮越ハ佐々木源慶と云人あり
景松則ハ左旋右旋乃運光坂ありて輝天儀を伴胡ハ移りて其れ故
三天儀と号し慶安以後遺言より其の祖位々本枝義の本像と云ふ事
小寄附ハ是願樂寺の祖と同姓の由縁あり毎年冬至の日三天儀と云
天文報講説一諸人ハ之を慶安述他の書本朝天文志十卷あり
世ハり



空也堂
 誦念佛

往も
 空也の
 瘦も
 此中
 こそ

らん 畫像心の硯と取まふく僧正乃中清現ハ 梶井清門跡
 の寶庫小傳ヲ清神像ハ清境内の社小藏世に菅家の清神像多く之とくも當社の尊經と希
 代テ賞ト人ハありクのツ次
 見性寺 二條川東ノありテ降土宗知恩院小ノ属ニ本尊阿弥陀佛 更ハ念ハ他
 初ハ系極下ノ清靈ノ後ハありテ宝永年中ニありト
 本願ハ二膳正重勝ハ織田信長公乃ノ慶子ハ村井春長軒小ノ峯ト係
 或時直指ク身見性成佛トハ八字ノ旗ト揚ク旗トなりテ天正十五年
 六月二日明智乱ノ時織田公不春長軒ハ死アリ依ニ此寺ヲ建立ス
 一ク件ノ旗ハ土中ニ埋テ見性寺トなりク同十六年六月ニありテ
 七回忌追善ノ時豊臣左衛門頼宗ハ十七石ノ寺領ト寄附セるニ膳正
 法名見性軒ノ墓當寺ノありテ具子孫原田村井乃兩氏且越ス
 三福寺 二條川東ノありテ降土宗普願寺小ノ属ニ本尊阿弥陀佛 定朝乃他
 初ハ系極二條ノありテ同基ヲ觀音空上人 坐係二尺餘
 夢見地藏 寺内ニ安立定朝ノ他之係ニ尺二寸餘後一條院ノ后上東門院ニありテ
生身ノ地蔵ノ示現トとテ其ノ清神像トなりテ他ノありテるニ係ス
 前大納言為世ニ福寺ヲ聽聞の次ありテ後ハ清神像ノ附述様
 新載ノ名ハ旗ハけハ後ハありテりハ茶ノとリすカおハれ備浪ト 示證上人



松東通為兄弟
 民家裏
 後成卿社

聞名寺

二條川東あり時宗相別齋澤も属に大炊道場といふ本尊阿弥陀佛を

秋野道場

寺内あり古に南都ありて聖徳王乃草創之中以京都二條鳥丸

法鏡山妙傳寺

改宗して甲別身延山の日朝上人の弟子と成をれり祖師乃骨舍利

蓮上人像

坐像二尺初八上京興聖寺あり當寺の六世日惠上人靈影也

大恩寺

本尊阿弥陀佛 觀覺大師の住後陽四十八獲巡の身三番之

教安寺

本尊阿弥陀佛 同住像二尺四寸四十八粒ありの身二十粒之

空中山寂光寺

其後系極二条より一近世又ありて

信行寺

本尊阿弥陀佛 定朝の住立像三尺八寸計方除有るに四十八

要法寺

其後系極二條より一近世又ありて

安養寺

系極四系坊門の面あり降土京西云瓜額 安養寺と書に

了蓮寺

京極通錦小路の面あり降土京百万石属に

本尊阿弥陀佛

坐像四尺。左如意輪經考坐像一尺八寸

鬼女舍利

當寺本尊初東山雲居寺あり一内近色の醜女本尊取拜する曾て

地藏堂

寺内あり定朝乃住坐像二尺靈驗

見佛舍利

當寺本尊初東山雲居寺あり一内近色の醜女本尊取拜する曾て

秘期舍利

當寺本尊初東山雲居寺あり一内近色の醜女本尊取拜する曾て

了蓮寺

京極通錦小路の面あり降土京百万石属に

本尊阿弥陀佛

坐像四尺。左如意輪經考坐像一尺八寸

鬼女舍利

當寺本尊初東山雲居寺あり一内近色の醜女本尊取拜する曾て

地藏堂

寺内あり定朝乃住坐像二尺靈驗

見佛舍利

當寺本尊初東山雲居寺あり一内近色の醜女本尊取拜する曾て

秘期舍利

當寺本尊初東山雲居寺あり一内近色の醜女本尊取拜する曾て

了蓮寺

京極通錦小路の面あり降土京百万石属に

本尊阿弥陀佛

坐像四尺。左如意輪經考坐像一尺八寸

鬼女舍利

當寺本尊初東山雲居寺あり一内近色の醜女本尊取拜する曾て

地藏堂

寺内あり定朝乃住坐像二尺靈驗

見佛舍利

當寺本尊初東山雲居寺あり一内近色の醜女本尊取拜する曾て

秘期舍利

當寺本尊初東山雲居寺あり一内近色の醜女本尊取拜する曾て

了蓮寺

京極通錦小路の面あり降土京百万石属に

本尊阿弥陀佛

坐像四尺。左如意輪經考坐像一尺八寸

鬼女舍利

當寺本尊初東山雲居寺あり一内近色の醜女本尊取拜する曾て

地藏堂

寺内あり定朝乃住坐像二尺靈驗





寺
阿闍梨の

風
五や
兼て遠史



比叡の阿闍梨の師と
年毎の一爰小嶮路を
此の月々ありて
美活の大社巡ありて
是をて下安泰の祈禱
予んん其
道條小端人
去阿闍梨れ
念珠と戴こ
結縁とともも
真如法性の
佛界小いの
あは
さるを

和歌所

皇太后高俊成卿五條室町乃旧館成卿治のたふし野明卿傳領し多し新拾遺集撰撰しゆし今ノ玉津嶋社後成卿社其殿因り人共ユ茶毎ふる之り拾芥抄曰

新拾遺集

撰者 孫者

勅撰之事治定貞治二年二月十一日内を被仰武家事

同十五日和哥所五條室町自武家以行忠三品被送繪青於撰者云

新玉津嶋社北村季吟翁六年のあつて信申社記と自筆小書中今社家このり具文小曰大ま入道殿乃家ハ五條室町のつとてハ微書記の物語もつとて

五条三位と申せ成多り具そふ御卿とせは社説記ハ今ノ御卿と申候へハ小亮憲乃探秘抄又ハ等持院殿壺蓋ふよりてハ俊成卿の屋帖ふ知話

一多ハ経賢法印と別當職小補也とせしとせハ多ク又推大僧都亮為

我々ハ二代小住人ノ玉津嶋ハ其の社ハありとせし

麻花院殿内也

つとて之代人しふちとて馴居とせしとせしとせし玉津嶋

され等持院殿寶篋院殿鹿苑院殿頓阿経賢亮為公私共ニ二代小住人といふ

つと世親ハつと後俊卿乃江ハ是ゆふハ附再興せしつとつと其出人ハ貞治六年二月廿三日新玉津嶋の舎舎とありつと序子石衛門督為遠卿

撰りゆ宮居ハつとあつたてありとせしとせしとせし

今をたをくりハ海より玉津嶋とせむのえおれ

同記の末ノ季吟翁曰古抄とせしつとつとつと原氏也語松草紙中紙とせし

八代集撰りハつとつとつと其ちハ土佐日記の抄と伊勢物語の拾穂抄ハ寛文

乃とつとつと後水尾院の席ハ殿覽ハとつとつと原氏の湖月抄ハ延宝の

二とせとつとつと茶葉集の拾穂抄ハ天和二年の以下也

同記小季吟翁六十歳の時玉津嶋社小住しつとつとつとつとつと

母とつとつとつとの老の故玉津嶋ハつとつとつと

社親云能潜の宗道芭蕉翁ハ伊賀上野城主の家士松尾基七爺之ハの城を探り

嚙みよつと冷泉家の門人となり季吟翁師範とあり玉津嶋ハ使者とつとつと

新玉津嶋ハ性来ハ竟ハ季吟翁乃才子となり吾道ハ他授ハの翁乃勸ハ

つとつと桃青ハ名余俳諧正風の一體ハ天下ハ弘む

元々ハ女社 高辻通室町の西ハ側人家の奥ハつとつと古ハ此地ハつと女乃嫁あり今ハ小洞

物産氏の宅地之則今ハつとつと江ノ狩野柴川の持地とせ

宇治拾芥云

長門和司といひつと人の女あり高辻室町つとつとつとつとつとつとつと

妻戸口つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

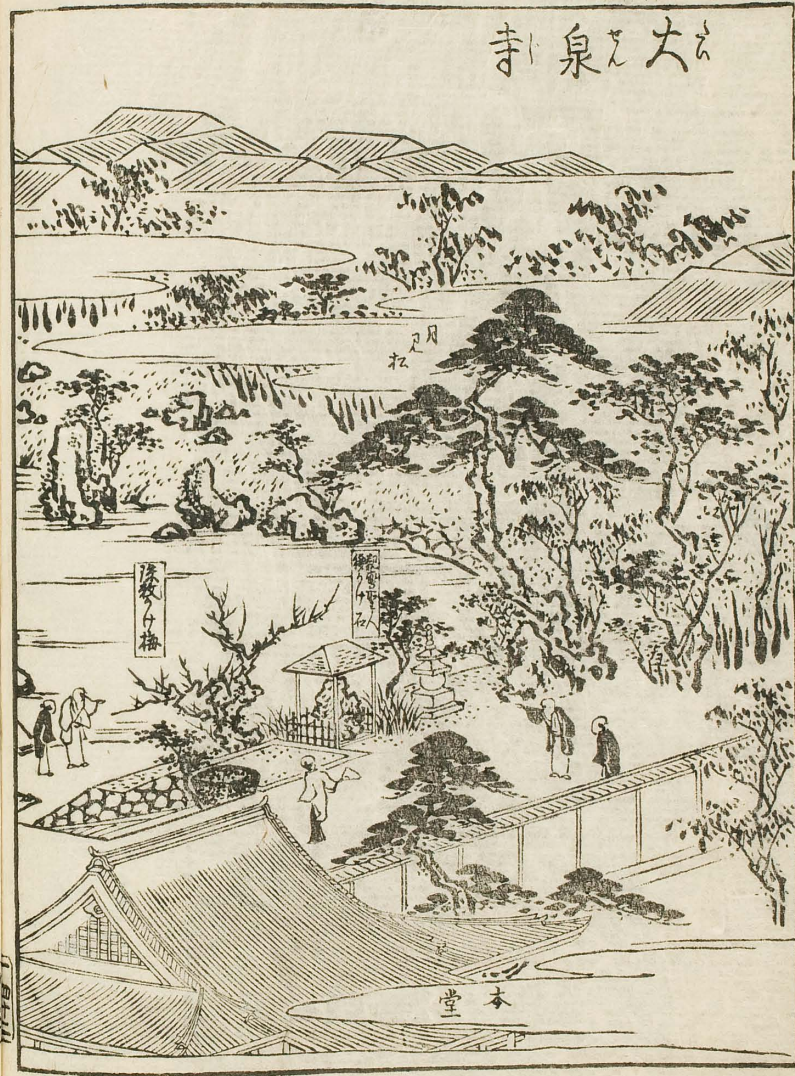
六枚念佛ハ毎歳七月
 十五日小左衛門の御くらのおの
 経とまう郡の田々よ
 出立蘭を愛念魂まの
 馳走小家々のおを小
 よりゆひ々々
 近手におくけ
 程言は向ドへて
 衆人の目とぼく
 むのも二佛茶の用と
 るのぼりるらんを

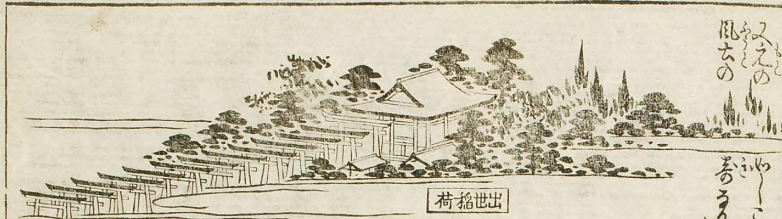


ちぢぢ
 いのせく
 とうり
 魂まの
 加賀
 子代





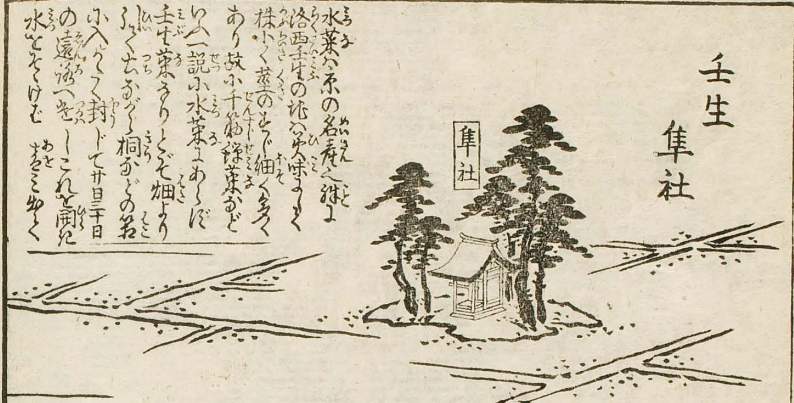




出荷荷

香月楼
三百年

又この
風土の
香るは
これ



隼社

壬生
隼社

水菜の系の名産は隼
後西平の地は味よく
株は茶のどろ細く多
あり故に千筋は菜かと
いふ説も水菜はあつた
主菜よりとて畑より
いふとあつた桐かしの若
小入のて封して廿日
の遠路へ送るこれと
水とをりて





稻荷市遠挑燈



國姓爺寓居

西六條本願寺... 國姓爺... 寓居... 里氏の... 孫唐王... 小七里... 清國海... 夫國姓爺... 大明泉列... 泊了身... 大明へ帰... 儀整秀... 姓爺相... 之くえ... 福列小... 鄭成功... 日本も母...

數奇策を用て閩澳二十餘萬の兵卒を率て... 泉列小於て大明を討つ... 十六年... 成功... 二世... 明室乃遺臣... 安縣... 朝... 源... 頼光... 勅... 余... 此... 猪... 限社...

猪限社

西六條本願寺... 猪限社... 田中氏の社...

源頼光... 朝... 朝の忌言... 頼光... 勅... 余... 此... 猪... 限社...

藪内茶亭之庭之圖

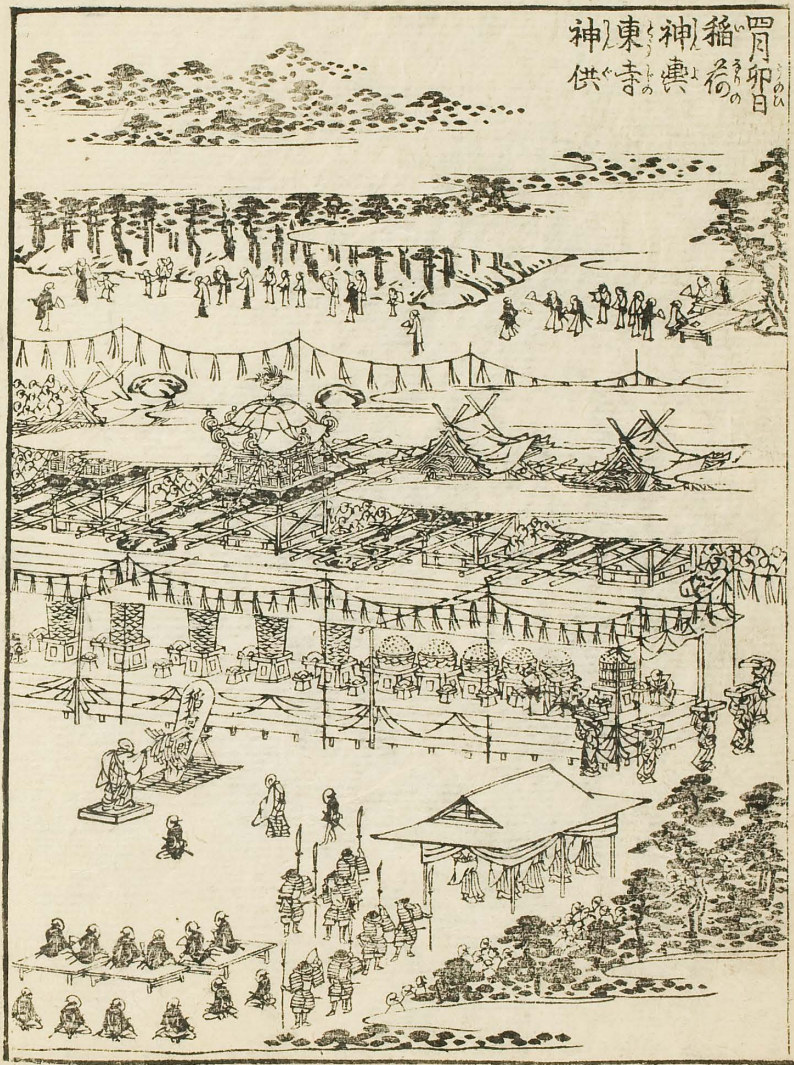
- 一 石圍の傍の池
- 二 利休の石
- 三 井
- 四 文晷石
- 五 丈珠石
- 六 利休の石
- 七 東山殿の石



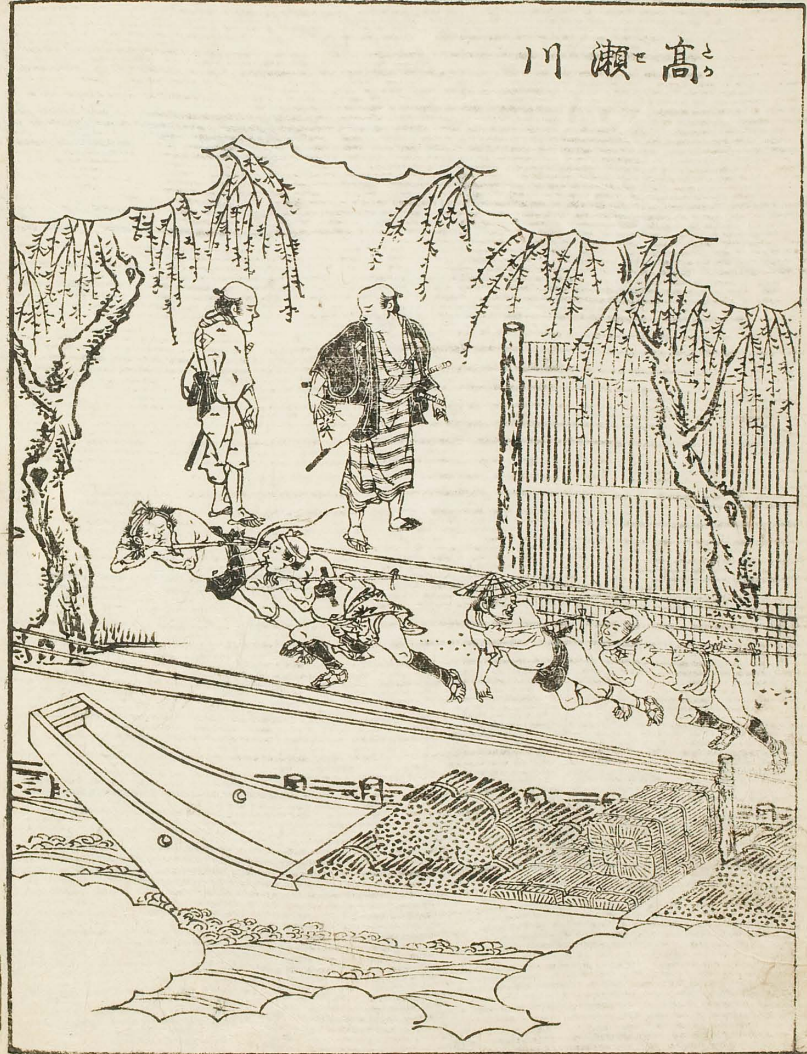
123

- 八 秋鳥の石
- 九 待合
- 十 徳田の石
- 十一 後観の石
- 十二 法古堂
- 十三 路次口
- 十四 雪隠





高瀬川



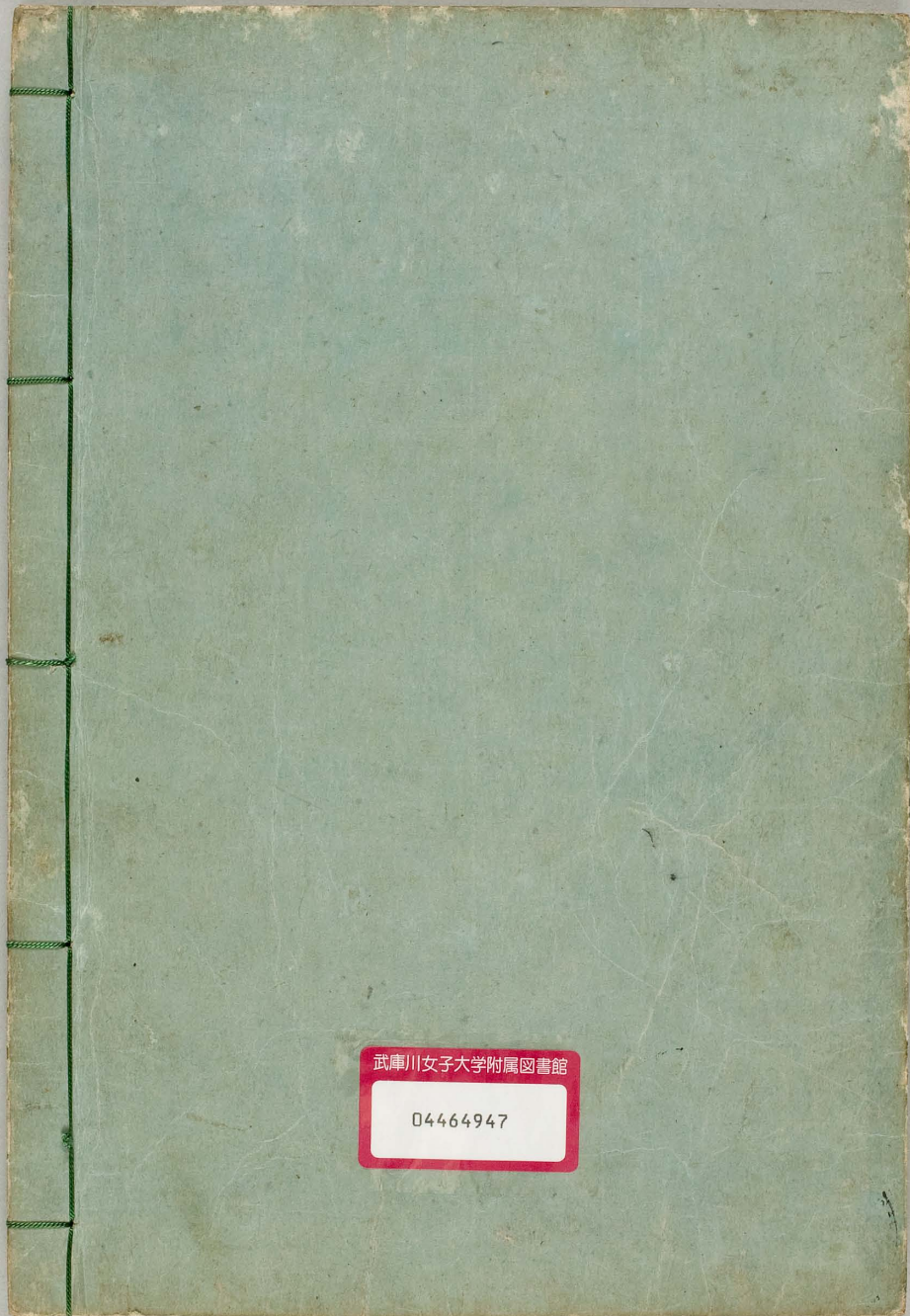
高瀬川争ひ
内裏御修理代
材石運り倉
りんり角倉
了りのり他りり
嵐りのり碑りよ
んりへりりり又
の内國りも同り名
ありりてりまりれり代りる
勅撰り小り和り多りく
ありつりれりるり



嵯峨左衛門押通(田島)南小の際(何)と堀(何)と田舎(何)五郷(何)の如(何)函舟(何)と召
 て(何)洛(何)と昔(何)より(何)伝(何)ね(何)て(何)京都(何)の(何)板(何)立(何)小(何)平(何)小(何)何(何)と(何)う(何)南(何)と(何)是(何)
 ま(何)と(何)入(何)洛(何)中(何)洛(何)外(何)の(何)堀(何)と(何)末(何)代(何)迄(何)相(何)定(何)一(何)郡(何)乃(何)回(何)記(何)と(何)う(何)と(何)や(何)と(何)伝(何)ね(何)れ(何)と(何)函(何)舟(何)
 畏(何)て(何)釋(何)せ(何)ま(何)と(何)の(何)極(何)武(何)を(何)延(何)暦(何)二(何)年(何)奈(何)良(何)の(何)系(何)より(何)長(何)岡(何)の(何)系(何)迂(何)り(何)て(何)十(何)年(何)あり(何)
 當(何)心(何)著(何)洛(何)郡(何)宇(何)多(何)村(何)と(何)る(何)今(何)亦(何)四(何)神(何)相(何)應(何)の(何)地(何)と(何)申(何)り(何)て(何)愛(何)宕(何)郡(何)小(何)海(何)ま(何)は(何)日(何)十
 二(何)年(何)い(何)京(何)極(何)入(何)云(何)油(何)小(何)洛(何)中(何)小(何)之(何)條(何)是(何)割(何)り(何)東(何)京(何)極(何)小(何)鴨(何)口(何)南(何)九(何)條(何)と
 と(何)九(何)重(何)の(何)都(何)と(何)号(何)せ(何)り(何)油(何)小(何)洛(何)東(何)京(何)在(何)西(何)谷(何)地(何)と(何)申(何)る(何)今(何)亦(何)長(何)岡(何)の(何)系(何)迂(何)り(何)て(何)十(何)年(何)あり(何)
 され(何)内(何)裏(何)代(何)少(何)の(何)替(何)り(何)申(何)す(何)洛(何)中(何)洛(何)外(何)の(何)堀(何)と(何)申(何)る(何)今(何)亦(何)長(何)岡(何)の(何)系(何)迂(何)り(何)て(何)十(何)年(何)あり(何)
 院(何)の(何)時(何)代(何)より(何)京(何)裏(何)中(何)原(何)も(何)し(何)我(何)場(何)と(何)成(何)小(何)分(何)て(何)万(何)民(何)乃(何)止(何)於(何)郡(何)置(何)れ(何)性(何)来(何)ら(何)ぬ
 よ(何)う(何)と(何)自(何)老(何)廢(何)と(何)い(何)ひ(何)秀(何)吉(何)云(何)ふ(何)て(何)云(何)ふ(何)は(何)先(何)洛(何)中(何)洛(何)外(何)と(何)定(何)一(何)郡(何)乃(何)回(何)記(何)と(何)う(何)と(何)や(何)と(何)伝(何)ね(何)れ(何)と(何)函(何)舟(何)
 東西(何)土(何)塚(何)は(何)せ(何)る(何)極(何)切(何)の(何)寺(何)院(何)洛(何)中(何)小(何)海(何)満(何)て(何)在(何)京(何)小(何)並(何)ひ(何)ら(何)れ(何)法(何)長(何)院(何)小(何)海(何)付(何)
 法(何)長(何)院(何)極(何)多(何)一(何)町(何)東(何)と(何)出(何)て(何)小(何)鴨(何)口(何)南(何)六(何)條(何)と(何)号(何)す(何)今(何)亦(何)長(何)岡(何)の(何)系(何)迂(何)り(何)て(何)十(何)年(何)あり(何)

補遺都名所圖會平安城之卷 畢

和島本居



武庫川女子大学附属図書館

04464947